

## 【中間答申に対する意見への対応】

### <H31.1 第3回審議会時点>

委員意見	意見の反映
「メッセージノート」に残された利用者の生の声を博物館ホームページに掲載してはどうか	ホームページの改修に合わせて、メッセージノートの内容について記載を検討（現行のメッセージノートは、公開について承諾が得られていないため、今後ノートに記載いただくコメントを対象として検討）
「土木の歴史的価値の継承」の取組みでは、土木構造物だけでなく、都市や地域の歴史など狭山池の文脈で広げた展開をすべき	【史跡ネットワーク】の取組みとして、狭山池及び周辺施設や古文書ゆかりの地など、土木だけでなく歴史と一体となった説明板、案内板の設置を検討
「空間活用の推進」では、主役である狭山池に誘導するため、博物館と狭山池の視覚的連続性や誘導策の検討を十分していただきたい	【史跡ネットワーク】【ダムネットワーク】として、現地と博物館を一体化させる説明板の設置に向けて仕様の検討を行っている（R2年度設置予定）
「今後の博物館の運営展開」に示されている取組みは現在の体制・予算で実施できるのか	まず、現在の体制（三者協働運営）で実現可能な取組みを、必要な予算を要求しながら実施。その後は自主財源を含む予算とその時点での人員を踏まえ取組みを拡大していく。
取組みの実現に向けては、基本～実施設計が必要	現段階の取組みはまだ設計を必要とするものではないが、設計が必要となる取組については、適切に行う。
「空間活用の推進」の検討では、だれもが利用できるよう、専門家の力も借りたユニバーサルデザインの検討が必要。	解説板や施設の案内表示の設置を検討の際に、だれもが理解できるデザイン、表示内容など、ユニバーサルデザインを意識した検討を実施する。
博物館の情報発信にはSNSを活用すべき	現在の体制の中で可能な範囲内でのSNSの活用を検討中 R2年度より実施予定
SNSの情報発信の成果を評価指標としてはどうか	SNS活用に合わせ、現在のホームページと同様に、アクセス数による評価など指標の検討を行う

## (別紙)

委員意見	意見の反映
博物館開館20周年は重要なポイント。シンポジウム、基調講演などを開催しては	開館20周年イベントの中で記念講演、記念シンポジウムの開催を検討する。
「ニーズ・シーズを把握した運営の実施」に示されるサイクル図に関しては、KPIを検討し、効果の発揮について20周年の前に審議会に諮っていただきたい	本審議会において、集中取組み期間を20周年イベント（R2.10～R3.10）終了後のR4.3までの変更を考慮しており、その集中取組み期間に対する短期目標を設定し、評価指標については長期取組みに対して設定する予定。本審議会資料1「4.取組み目標と成果指標の設定」において(案)の提示。指標の確定についてはR3年度審議会において提示予定。
「展示の改善」として、現在の灌漑範囲や防災施設の情報反映（利用者からの要望が多い）	台風等の被災状況や、災害に対する行政の取組みに関するパネル展示を開催（令和元年9月13日(金)～9月25日(水)）
安藤建築の魅力を伝え、活用する取組みの実施	一般を対象とした建築物見学会を実施 （生きた建築ミュージアム フェスティバル大阪2019、令和元年10月26日(土)） 建築関係の連携相手に建物見学や利活用を検討を打診。令和2年度の実施に向け継続調整中
外国人来館者に対し、英語解説の早急な整備が必要	子どもや外国人にもわかりやすいリーフレット（博物館全般を紹介する小冊子）を作成。今後、この取組みをホームページからの音声ガイド案内の作成に繋げていく。また、館内常設展示解説の多言語化（英・中・韓）を令和2年度に実施予定。
安藤建築の空間を活用して、年間数日でも特別な空間活用やイベント開催をすれば新たな魅力創造に繋がるのでは	令和元年度は一般を対象とした建築物見学会を実施。次年度以降も継続する予定。 今後は、屋外空間を活用したイベント開催を検討する。＜今年度も狭山池まつりに合わせて高所作業車体験を実施＞
20周年に向けた目標設定は分かり易いが、具現化していくことが必要	具体的な取組みメニューだけでなく、取組みに対する指標を設け、その指標達成による目標の具現化を目指す。